

分岐条件の付いた埋め込み問題とその応用について

金沢大・自然 野村 明人 (Akito Nomura)

本稿の目的は、代数体上の不分岐非アーベル p 拡大の存在について埋め込み問題の立場から考察することである。尚、詳しい証明に付いては [3][5] を参照してください。以下、 p は常に奇素数を表すとする。

§1 Introduction

k を代数体、 \mathfrak{G} を k の絶対ガロア群、即ち k の代数閉包の k 上のガロア群、とする。 K/k をガロア拡大とし、 $(\epsilon): 1 \rightarrow \mathbf{Z}/p\mathbf{Z} \rightarrow E \rightarrow \text{Gal}(K/k) \rightarrow 1$ を中心拡大とする。このとき埋め込み問題 $(K/k, \epsilon)$ は、図式

$$\begin{array}{ccccccc} & & & & \mathfrak{G} & & \\ & & & & \downarrow \varphi & & \\ (\epsilon): 1 & \longrightarrow & \mathbf{Z}/p\mathbf{Z} & \longrightarrow & E & \xrightarrow{j} & \text{Gal}(K/k) \longrightarrow 1 \end{array} \quad (*)$$

で定義される。ここで φ は自然な全射を表す。 \mathfrak{G} から E への連続な準同型 ψ で、 $j \circ \psi = \varphi$ を満たすものを埋め込み問題 $(K/k, \epsilon)$ の solution と呼び、solution が存在するとき $(K/k, \epsilon)$ は可解であると言う。さらに、solution ψ が全射のとき、 ψ は proper solution であると言う。また、solution ψ に対して、 $\text{Ker } \psi$ に対応する k 上のガロア拡大体を $(K/k, \epsilon)$ の solution field と呼ぶ。 $(K/k, \epsilon)$ が proper solution を持つことは、

ガロア拡大 $L/K/k$ で自然な完全列 $1 \rightarrow \text{Gal}(L/K) \rightarrow \text{Gal}(L/k) \rightarrow \text{Gal}(K/k) \rightarrow 1$ が (ε) と一致するようなものが存在することと同値である.

k の素点 q に対して, q による k の完備化を k_q , k の K への延長による K の完備化を K_q で表す. このとき, 埋め込み問題 $(K/k, \varepsilon)$ の局所問題 $(K_q/k_q, \varepsilon_q)$ が次の図式で定義される.

$$\begin{array}{ccccccc}
 & & & & \mathfrak{S}_q & & \\
 & & & & \downarrow \varphi|_{\mathfrak{S}_q} & & \\
 (\varepsilon_q) : 1 & \longrightarrow & \mathbf{Z}/p\mathbf{Z} & \longrightarrow & E_q & \xrightarrow{j|_{E_q}} & G_q \longrightarrow 1.
 \end{array}$$

ここで G_q は K_q/k_q のガロア群, \mathfrak{S}_q は k_q の絶対ガロア群, E_q は G_q の j による逆像を表す. また, $(K_q/k_q, \varepsilon_q)$ に対する solution, solution field 等は, $(K/k, \varepsilon)$ の場合と同様に定義される.

次は, 埋め込み問題において基本的な結果である.

Fact 1(Ikeda[1]) 埋め込み問題 $(K/k, \varepsilon)$ は可解とする. このとき $(K/k, \varepsilon)$ は proper solution を持つ.

Fact 2(Neukirch[2]) k の任意の素点 p に対して $(K_p/k_p, \varepsilon_p)$ は可解とする. このとき $(K/k, \varepsilon)$ は可解である.

Fact 3(Neukirch[2]) 埋め込み問題 $(K/k, \varepsilon)$ は可解であるとする. S を k の素点の有限集合とし, S の元 q に対して $L(q)$ を $(K_q/k_q, \varepsilon_q)$ の solution field とする.

このとき $(K/k, \epsilon)$ の solution field L で, S の元 q による L の完備化が $L(q)$ と一致するものが存在する.

§2 Main theorem

$(K/k, \epsilon)$ を, 図式 (*) で定義される埋め込み問題とする. そこで分岐条件の付いた埋め込み問題 $(K/k, \epsilon, \theta)$ を次のように定義する.

Definition $(K/k, \epsilon, \theta)$ は $(K/k, \epsilon)$ と同じ図式 (*) で定義される. \mathcal{O} から E への連続な準同型 ψ が $(K/k, \epsilon, \theta)$ の solution であるとは, 条件

- (1) ψ は $(K/k, \epsilon)$ の solution,
- (2) ψ に対応する solution field は K 上不分岐,

を満たすことである. さらに ψ が全射のとき, ψ は proper solution であるという.

このとき次の結果が得られた.

Theorem 1 ガロア拡大 $K/k/\mathbf{Q}$ は条件

- (1) $[k : \mathbf{Q}]$ は p と素,
- (2) K/k は不分岐 p 拡大,

を満たすとし, $(\epsilon) : 1 \rightarrow \mathbf{Z}/p\mathbf{Z} \rightarrow E \rightarrow \text{Gal}(K/\mathbf{Q}) \rightarrow 1$ を, split しない中心拡大とする. このとき $(K/\mathbf{Q}, \epsilon, \theta)$ は proper solution を持つ.

(証明の概略) 先ず, 埋め込み問題の一般論から, $(K/\mathbf{Q}, \epsilon)$ は可解である. 次に条件

(1)(2) に注意すると, Fact 3 を用いて $(K/\mathbf{Q}, \epsilon)$ の solution field L_1 で L_1/K では,

p の因子が不分岐なものが存在することが解る. このとき L_1 は, $(K/\mathbf{Q}, \varepsilon)$ の proper solution を与える. 実際, L_1 に対応する soluiton を ψ とし, $\mathfrak{G}, \text{Gal}(K/\mathbf{Q}), E$ の p -Sylow 群をそれぞれ $\mathfrak{G}(p), G(p), E(p)$ とすると, 制限写像 $H^2(\text{Gal}(K/\mathbf{Q}), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z}) \rightarrow H^2(G(p), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z})$ が 1 対 1 であることより, $1 \rightarrow \mathbf{Z}/p\mathbf{Z} \rightarrow E(p) \rightarrow G(p) \rightarrow 1$ が split しないことがわかる. よって, $E(p)$ と $G(p)$ の極小生成系の元の個数は等しく, $\psi|_{\mathfrak{G}(p)}: \mathfrak{G}(p) \rightarrow E(p)$ は全射である. 従って $\psi: \mathfrak{G} \rightarrow E$ も全射となり, ψ は $(K/\mathbf{Q}, \varepsilon)$ の proper solution である. L_1/K が不分岐ならば L_1 が求めるガロア拡大体である. そこで L_1 の素点 q_1 が L_1/K で分岐しているとする. q_1 の K, \mathbf{Q} への制限をそれぞれ q, \mathfrak{q} とし, K_q に含まれる \mathbf{Q}_q 上の最大 p 拡大を F とすると $1 \rightarrow \text{Gal}(L_{1q_1}/K_q) \rightarrow \text{Gal}(L_{1q_1}/F) \rightarrow \text{Gal}(K_q/F) \rightarrow 1$ は split し, q の F への制限 \bar{q} は F 上の p 次巡回拡大で分岐する. よって $N_{F/\mathbf{Q}_q}(\bar{q}) \equiv 1 \pmod{p}$. 今 F/\mathbf{Q}_q は p 拡大だから $q \equiv 1 \pmod{p}$ を得る.

そこで T を $\mathbf{Q}(\zeta_q)$ の p 次部分体, \bar{q} を q の $T \cdot L_1$ への延長とし, \bar{q} の $T \cdot L_1/K$ における惰性体を L_2 とする. このとき L_2 は条件

- (a) L_2 は $(K/\mathbf{Q}, \varepsilon)$ の solution field,
- (b) L_2/K で q の因子は不分岐,
- (c) L_1/K で分岐しない素点は L_2/K でも分岐しない,

を満たす. 従ってこの操作を続けると求めるガロア拡大が得られる. (証終)

§3 Applications

この節では, **Theorem 1** の応用について述べる. 先ず2次体上の不分岐非アーベル p 拡大の存在について次が言える.

Theorem 2 k を2次体, p を奇素数とし, k のイデアル類群の p -rank が2以上であるとする. このとき不分岐ガロア拡大 L/k で $\text{Gal}(L/k)$ が

$$\langle \alpha, \gamma \mid \alpha^p = \beta^p = \gamma^p = 1, \gamma^{-1}\alpha\gamma = \alpha\beta, \beta^{-1}\alpha\beta = \alpha, \beta^{-1}\gamma\beta = \gamma \rangle$$

と同型なものが存在する.

(証明) 仮定より, 不分岐ガロア拡大 K/k でそのガロア群が $(\mathbf{Z}/p\mathbf{Z})^2$ と同型なものが存在する. このとき K は \mathbf{Q} 上のガロア拡大で $\text{Gal}(K/\mathbf{Q})$ は

$$G = \langle u, v, w \mid u^p = v^p = w^2 = 1, w^{-1}uw = u^{-1}, w^{-1}vw = v^{-1}, v^{-1}uv = u \rangle$$

と同型になることがわかる. そこで

$$E = \left\langle \alpha, \gamma, \delta \mid \begin{array}{l} \alpha^p = \beta^p = \gamma^p = \delta^2 = 1, \gamma^{-1}\alpha\gamma = \alpha\beta, \beta^{-1}\alpha\beta = \alpha, \\ \beta^{-1}\gamma\beta = \gamma, \delta^{-1}\alpha\delta = \alpha^{-1}, \delta^{-1}\beta\delta = \beta, \delta^{-1}\gamma\delta = \gamma^{-1} \end{array} \right\rangle$$

に対して, split しない中心拡大

$$1 \longrightarrow \langle \beta \rangle \longrightarrow E \xrightarrow{j} G \longrightarrow 1$$

を考える. ここで j は $\alpha \mapsto u, \gamma \mapsto v, \delta \mapsto w$ で定義される準同型である. このとき **Theorem 1** より埋め込み問題 $(K/\mathbf{Q}, \varepsilon, \emptyset)$ は proper solution ψ を持つ. ψ に対応する solution field を L とすると L/k が求めるガロア拡大である.(証終)

次に Hilbert p -類体の類数の p 可除性についての応用例をあげる.

Theorem 3 l, p を異なる奇素数とし, $p^f \equiv 1 \pmod{l}$ を満たす最小の自然数 f は偶数であると仮定する. さらに, k/\mathbf{Q} はアーベル l 拡大とする. このとき k の類数が p で割り切れるならば, k の最大不分岐アーベル p 拡大体の類数もまた p で割り切れる.

(証明) k の類数が p で割り切れることより, ガロア拡大 $K/k/\mathbf{Q}$ で次の条件

(a)(b) を満たすものが存在する.

(a) K/k は不分岐初等アーベル p 拡大.

(b) ガロア拡大 $K'/k/\mathbf{Q}$ で $k \subsetneq K' \subsetneq K$ を満たすものは存在しない.

このとき $\text{Gal}(k/\mathbf{Q})$ は $\text{Gal}(K/k)$ に作用し, 群環 $\mathbf{F}_p[\text{Gal}(k/\mathbf{Q})]$ の構造を調べることにより, $p\text{-rank Gal}(K/k) = fl^j$ を満たす非負の整数 j が存在することがわかる (cf.[5;Theorem 9]). よって,

$$H^2(\text{Gal}(K/k), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z}) \cong (\mathbf{Z}/p\mathbf{Z})^{\frac{fl^j(fl^j+1)}{2}}.$$

今 f が偶数だから

$$p^{\frac{fl^j(fl^j+1)}{2}} \not\equiv 1 \pmod{l}.$$

一方,

$$H^2(\text{Gal}(K/\mathbf{Q}), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z}) \cong H^2(\text{Gal}(K/k), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z})^{\text{Gal}(k/\mathbf{Q})}.$$

そこで $\text{Gal}(k/\mathbf{Q})$ の $H^2(\text{Gal}(K/k), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z})$ への作用に関する軌道分解を考えると

$$H^2(\text{Gal}(K/k), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z})^{\text{Gal}(k/\mathbf{Q})} \neq 0$$

がわかり,

$$H^2(\text{Gal}(K/\mathbf{Q}), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z}) \neq 0$$

を得る. よって **split** しない中心拡大

$$(\epsilon): 1 \longrightarrow \mathbf{Z}/p\mathbf{Z} \longrightarrow E \longrightarrow \text{Gal}(K/\mathbf{Q}) \longrightarrow 1$$

が存在し, **Theorem 1** よりガロア拡大 $L_1/K/\mathbf{Q}$ で $\text{Gal}(L_1/\mathbf{Q})$ が E と同型かつ

L_1/k が不分岐 p 拡大となるものが存在する. もし L_1/k がアーベル拡大ならば

$$H^2(\text{Gal}(L_1/\mathbf{Q}), \mathbf{Z}/p\mathbf{Z}) \neq 0$$

であることが同様に示される. 従って同じ操作を繰り返すことによりガロア拡大 $L/k/\mathbf{Q}$

で, L/k が不分岐非アーベル p 拡大となるものが存在する. よって k の最大不分岐

アーベル p 拡大体の類数は p で割り切れる. (証終)

Remark. 任意の素数 p に対して, 類数が p で割り切れるような \mathbf{Q} 上の 3 次巡回

拡大体が無限個存在することが知られている (cf. [6][7]). よって **Theorem**

3 の仮定を満たすような k は確かに存在する.

References

- [1].M.Ikeda, Zur Existenz eigentlicher galoisscher Körper beim Einbettungsproblem, Hamb.Abh.**24**(1960),126–131.
- [2].J.Neukirch, Über das Einbettungsproblem der algebraischen Zahlentheorie, Invent. Math.**21**(1973),59–116.
- [3].A.Nomura, On the existence of unramified p -extensions, Osaka J.Math.**28** (1991), 55–62
- [4].A.Nomura, On imbedding problems with ramification conditions and their applications, Dissertation, Kanazawa University,1991
- [5].A.Nomura, A remark on the class number of Hilbert's class fields (preprint).
- [6].K.Uchida, Class numbers of cubic cyclic fields, J.Math.Soc.Japan **26** No.3 (1974), 447–453.
- [7].L.Washington, Class Numbers of the Simplest Cubic Fields, Math.Comp.**48** (1987), 371–384.